

2014年度
(平成26年度)

事業報告書

目次

I	2014年度事業報告	
	1. 国内における平和構築活動	2
	2. 海外における平和構築活動	11
	3. 財務体質の強化	14
II	組織	15
III	会議	19



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2014年度 事業報告にあたって

2014年度においては、会員各位をはじめ多くの企業、団体、個人の方々のご支援とご協力を得て、(公社)日本ユネスコ協会連盟の広範囲にわたる事業活動を順調に展開できたのではないかと考えています。これもひとえに、皆様の温かいご理解とご支援の賜物と心から感謝申し上げます。2014年度、私たちはこれまで以上にESDを意識し、「持続性」「未来世代」という共通のキーワードをもとに、社会が抱える課題解決に向け、数多くの出会いを通じて、様々な活動を展開することができました。

「国連持続可能な開発のための教育（ESD）10年」の最終年となった2014年度はUNESCOと日本政府共催の世界会議が11月に日本で開催され、「ESDに関するグローバルアクションプログラム（GAP）」が採択されました。全国ではESDの拠点として913校がユネスコスクールに登録され、その結果、ユネスコ協会とユネスコスクールとの連携をどのように図っていくかが私たちの大きな課題となりました。ブロック活動研究会では「ESDとユネスコスクール」を共通テーマに掲げ、地域ごとにESDの視点から喫緊の課題を掘り下げました。また、民間ユネスコ運動としては「ユネスコ協会ESDパスポート」を活用して学校、行政、企業、NPO、地域住民を有機的につなげ、未来世代を周りの大人が協力して育むことを目指し、具体的なActionとしての一歩を踏み出しました。

2014年度は青年を対象とした新しい事業も増えました。民間ユネスコ運動の担い手となる青年を対象に国内外で行われる国際会議や研修会への参加旅費等を一部補助する「青年外部研修制度」や青年活動を体系的に検討する「青年事業情報交換会」が新たに誕生しました。「高校生カンボジアスタディツアー」もスタートし、参加した高校生は今後の人生を左右するまでのさまざまな学びを得ました。

一方で、UNESCOの最重要課題でもあるEducation for Allの目標もと、さまざまな活動を展開してきた「世界寺子屋運動」ではカンボジア、アフガニスタン、ネパールの貧困地域を対象に識字教育、収入向上プログラム、復学クラスに力を注ぎ、識字クラスだけでも1万人を超える人たちが受講することができました。また、国内においては2014年度、東日本大震災被災地の子どもたちを支援する奨学金事業で1048人の遺児孤児と、833人の経済困難家庭の生徒に奨学金を提供することができました。

今後ともUNESCO憲章の理念に基づき、平和な国際社会の実現を目指しつつ、社会課題解決のための努力を積み重ね、具体的な成果をあげていく努力を続けてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

I 2014年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

① 第70回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床

全国のユネスコ会員が一堂に会し、その年に最もふさわしいテーマについて研鑽を積み、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信することを目的に、2014年度は北海道ユネスコ連絡協議会、知床ユネスコ協会とともに、北海道斜里郡斜里町で開催し、約600人が参加した。UNESCOが提唱するESDの取り組みやユネスコスクールの高校生によるESD活動の発表、知床を含む世界遺産の保護について講義やパネルディスカッションを行い、持続可能な社会を考える機会となった。

大会テーマ 「持続可能な社会の構築を目指して

～知床に集おう！ ユネスコの英知～」

プログラム 記念講話 松田 昌士 日本ユネスコ協会連盟会長

基調講演 石 弘之「世界遺産の危機」

パネルディスカッション 「地球環境の保全を知床から考える」

ユネスコスクール若者のつどい 「知床から何を学び、知床から何ができるか」

日程 2014年6月7日（土）

会場 斜里町公民館 ゆめホール知床（北海道斜里郡斜里町）

主催 日本ユネスコ協会連盟、北海道ユネスコ連絡協議会、知床ユネスコ協会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター
環境省北海道地方環境事務所、北海道、斜里町、羅臼町など

② ブロック別ユネスコ活動研究会

ユネスコ協会会員の自己研鑽を図り、ユネスコ活動の情報交換や経験交流を通じて、ブロック内におけるユネスコ活動を活性化させることを目的に、下記9ブロックで研究会を開催し、合計で約2,000人が参加した。

東北ブロック・ユネスコ活動研究会	（青森県青森市）	2014年10月18日～19日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会	（兵庫県神戸市）	2014年10月18日～19日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会	（北海道札幌市）	2014年10月25日
関東ブロック・ユネスコ活動研究会	（群馬県高崎市）	2014年10月25日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会	（長野県木曾市）	2014年10月25日～26日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会	（岡山県津山市）	2014年11月15日～16日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会	（佐賀県多久市）	2014年11月25日～26日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会	（愛媛県松山市）	2014年11月22日～23日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会	（福井県福井市）	2014年11月29日～30日

③ 「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」キャンペーン・民間ユネスコ運動の日

各地ユネスコ協会が主体となって、7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。恒例となった「平和の鐘（か

ね・おと)を鳴らそう!)は全国の協会のうち約 100 協会が実施し、ユネスコ協会就学支援奨学金への募金活動などが活発に行われた。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

2011年3月に発生した東日本大震災からの復興4年目となる2014年度、引き続き多くの企業、団体、個人のご協力を得て、以下の活動を行った。

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

経済状況が悪化した家庭の子どもに、原則として月額2万円を3年間給付するもので、岩手県陸前高田市、釜石市、宮古市、山田町、大船渡市、宮城県東松島市、名取市、女川町、山元町、福島県南相馬市、相馬市、いわき市の計12自治体で合計833人の児童・生徒に奨学金を給付した。(※東日本大震災による遺児孤児を除く。)

B) MUFG-ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループとの協働により、2011年4月に「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立した。本基金は、震災により遺児・孤児となった子どもたちを対象に、小学校入学時から高校卒業時まで奨学金(開始時に一時金10万円、月額2万円)の給付を行うもので2014年度は、遺児・孤児1,048人に給付した。また、奨学金の他にも、心豊かな成長プログラム、花壇再生プログラム、ボランティア活動プログラムを継続実施した。

C) 力士会支援

白鵬関を長とする力士会の全力士が、津波で破壊された宮城県気仙沼市の相撲場の再建をめざして募金をし、その資金をもとに新相撲場を建設した。

D) アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

アクサ生命保険株式会社の協力により、減災・防災教育に取り組む全国の小・中・高20校を対象に「活動助成」を行い、あわせて、東日本大震災の被災地をフィールドにした「教員研修会」や都内での「活動報告会」を実施した。

E) 企業マッチング支援

企業の協力を得て、被災地へ音楽を通じた教育支援や、園児、児童たちとのふれあい交流事業などを通じてコミュニティの再生を支援した。

F) 「東日本大震災 教育復興支援レポート」

上記A)～E)の活動の成果をまとめ、募金者や協力企業・団体に謝意を込めて活動報告を行った。

②青少年活動支援

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」プロジェクト

子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、自らの問題として捉え、考え、自発的に行動することを目的に、ESDパスポートを持った子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、課題解決のために行動するボランティアの参加促進のツールとしてパスポートを発行・配布した。ユネスコ協会や地域の団体が主催するボランティア活動に参加を奨励し、参加回数に応じてユネスコ協会から活動認定書を発行し、ボランティア体験発表会等で顕彰した。2年目の2014年度は全国で25ユネスコ協会・クラブが地域のユネスコスクールに働きかけ実施した。

参加協会・クラブ

室蘭ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、千葉ユネスコ協会、市川市ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、環境維新隊東京ユネスコクラブ、鎌倉ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、甲府ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、氷見ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、石川県白山ユネスコクラブ、名古屋ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、箕面ユネスコ協会、岡山ユネスコ協会、津山ユネスコ協会、防府ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、新居浜ユネスコ協会、沖縄県ユネスコ協会

B) 第46回ユネスコ子どもキャンプ in 岐阜

1969年に第1回キャンプを実施して以来、46回目を迎えた。小学4年生から中学3年生までの参加者46人と青年スタッフ約60名が岐阜市少年自然の家に参加し、自然体験活動を通じたプログラムの中でユネスコ活動の学習と理解を深めた。

日時 2014年8月6(水)～9日(土)

場所 岐阜県岐阜市少年自然の家

主催 日本ユネスコ協会連盟、岐阜県ユネスコ協会

後援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会

C) 青年外部研修補助制度

UNESCO 等の実施する国際会議等や、国内外で外部団体が行う研修会への参加旅費等一部を補助し、派遣する取組を今年度から開始。本制度を活用して、松山ユネスコ協会小崎好美さんが「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」に参加した。

D) 青年事業情報交換会

青年のユネスコ活動への参加促進および青年事業を体系的に検討する「青年事業情報交換会」を青年評議員や全国的青年連絡組織代表を交えて評議員会開催日(翌日など)で実施した。

E) 青少年ユネスコ活動助成

日 時 2014年5月24日(審査会実施日)

内 容 50のユネスコ協会(51事業)に助成金を拠出し、地域における活動を通じた民間ユネスコ運動の活性化を図った。

申請対象分野と助成額

分野1 「わたしの町のたからもの」絵画展事業/助成額:1協会あたり上限3万円

分野2 ユネスコ協会に所属する青年が中心となって行う社会的課題の解決に資する事業/助成額:1協会あたり上限20万円

分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会の連携強化に資する事業(例:ユネスコスクール対象活動発表会、学校教員向けユネスコスクール研修会等)/助成額:1協会あたり上限5万円

分野4 全国ユネスコ子どもキャンプ/助成額:上限30万円

審査会での審議を経て、以下の協会に助成を行った。

札幌ユネスコ協会、遠野ユネスコ協会、水沢ユネスコ協会、福島ユネスコ協会、宇都宮ユネスコ協会、日光ユネスコ協会、茨城県ユネスコ連絡協議会、日立ユネスコ協会、土浦ユネスコ協会、水戸ユネスコ協会、ひたちなかユネスコ協会、茨城県西地方ユネスコ協会、北茨城ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会、草加ユネスコ協会、富里ユネスコ協会、柏ユネスコ協会、八街ユネスコ協会、沼津ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、石川県白山ユネスコクラブ、長浜ユネスコ協会、川西ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、紀南ユネスコ協会、宝塚ユネスコ協会、山口ユネスコ協会、因島ユネスコ協会、下関ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、久留米ユネスコ協会、熊本ユネスコ協会、石狩ユネスコ協会、秩父ユネスコ協会、杉並ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、厚木ユネスコ協会、萩ユネスコ協会、北海道ユネスコ連絡協議会、岩手県ユネスコ協会連盟、秋田ユネスコ協会、渋谷ユネスコ協会、市川市ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、箕面ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、彦根ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、愛媛県ユネスコ連絡協議会、全国的青年連絡組織

F) 青少年活動支援のための事業実施

青少年を東日本大震災の被災地に派遣する事業を実施するための募金活動を行った。

G) ユネスコ寺子屋プロジェクト

小・中・高等学校を対象に世界寺子屋運動を題材としたプロジェクト型学習の普及を図ることを目的として、児童・生徒が非識字という世界的課題を学び、書きそんじハガキ回収による募金協力を呼びかけるリーフレットを制作する学習プロジェクト。プ

プロジェクトを通じて公正な社会の実現と教育の大切さを学ぶ機会を提供した。
2014年度は全国から19校、約2000人の児童生徒が参加した。

H) 「KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow-カナダとの高校生交流事業（招聘と派遣）」
2013年度から2年間にわたる事業として受託した外務省拠出プロジェクト
「KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-カナダとの高校生交流事業（招聘と派遣）」について、日本からカナダに派遣した8グループ200人について2ヵ月後アンケート、1年後アンケートを実施し、最終報告書提出に向けた準備を行った。

③「守ろう地球のたからもの」（通年）

持続発展教育(ESD)の推進を目的に以下の事業を行った。

A) 世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動

2008年～2012年の5年間に植樹した約10万本の苗木の育樹活動を行った。2014年6月29-30日、7月5-6日の2回、三菱UFJフィナンシャル・グループ社員75人が植樹作業にボランティア参加した。

B) 第39回「みどりの絵コンクール」

三菱UFJ環境財団の「みどりの絵コンクール」事業を共催した。応募総数28,365点の中から、最優秀賞9人、優秀賞36人、入選409人を選考し、2014年12月6日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

C) ユネスコスクールへの支援

三菱東京UFJ銀行とユネスコスクール支援として以下の4つの協働事業を行った。

1. ユネスコスクール新規登録校へのプレートを地元ユネスコ協会の協力を得て226校に寄贈した。
2. ユネスコスクール高校生を対象とした「第5回ESD国際交流事業」。2014年度は2015年3月21日から28日までユネスコスクールの高校生6人をドイツ(ハイデルベルグ)およびフランス(パリ)のユネスコスクールやUNESCOパリ本部に派遣した。
3. ユネスコスクールのESD学習を支援する「ESDアシストプロジェクト」。全国101校に総額9,809,827円の助成を行った。
4. ESD教材の寄贈

ESD教材「豊かな自然編」と「豊かな世界遺産編」を学校に寄贈する協働事業を行った。2014年8月19日に教材の普及を目的とした教員研修会を開催し、79名が参加した。また、ESD絵本『サクラソウのひみつ』を公立図書館等に寄贈した。

④「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」展示会の共催

アジアの非識字問題解決への意識啓発活動として、1990年の国際識字年以来、三菱広報委員会と協同して行ってきた、アジア24の国・地域の子どもたちが描く絵日記コンテストの展示会を2014年9月9日から19日まで、丸キューブ(東京都千代田区)で開催した。

主催 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)、

日本ユネスコ協会連盟

⑤ MSDサイエンススクール

MSD株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校6年生を主な対象にした「サイエンススクール」出前授業を協働で実施した。2014年度は、全国13校で授業を行い、合計1158人の子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりを体験し、生命や科学への興味をもつきっかけを得た。

実施16校（実施例）：

宮城教育大学附属小学校、横浜市立幸ヶ谷小学校、浦安市立美浜南小学校、大田区立赤松小学校、台東区立大正小学校、大阪市立清明丘小学校、目黒区立東根小学校、清明学園小学校、市川市立大野小学校、熊谷市立長井小学校、品川区立台場小学校、横芝光町立横芝小学校、豊中市立新田南小学校

協力ユネスコ協会

仙台ユネスコ協会、大田ユネスコ協会、千代田ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、目黒ユネスコ協会、渋谷ユネスコ協会、市川市ユネスコ協会

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

ユネスコ活動の普及促進活動により4つのユネスコ協会が新設された。

<新設ユネスコ協会>

菰野ユネスコ協会	2014年9月13日第497回理事会承認
滝沢ユネスコ協会	2015年1月17日第499回理事会承認
ミンガラパー・ユネスコクラブ	2015年3月14日第500回理事会承認
スポーツと平和を考えるユネスコクラブ	2015年3月14日第500回理事会承認

(4) 世界遺産・地域遺産活動

地域の文化・自然遺産を100年後の子どもたちに継承することを目的に次の活動を行った。

① 未来遺産運動（通年）

A) 第6回プロジェクト未来遺産の公募と選定

21団体からの応募があった。西村幸夫東京大学先端科学技術研究センター所長・教授を委員長とする未来遺産委員会の審議を経て、各分野の専門家による書類選考と現地調査を行った。その結果、12月8日に開催した未来遺産委員会で、「2014年度第6回プロジェクト未来遺産」として下記の3団体を選考し、登録を決定した。登録証伝達式は2015年2月より各地で実施した。

特別協力 東日本旅客鉄道株式会社、レクサス、住友ゴム工業株式会社

事業協力 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

広報協力 株式会社タクシーちゃんねる

連携事業 一般社団法人みらいみんよう、一般社団法人フォレストック協会、日本再発見塾

「2014年度第6回プロジェクト未来遺産」プロジェクト名（団体名/所在地）

1. 首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子どもたち達に残す（未来遺産・

- 見沼たんぼプロジェクト推進委員会/埼玉県さいたま市)
2. 「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくり (雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会/東京都豊島区)
 3. 被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」(グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブ/広島県広島市)

B) チームエナセーブ未来プロジェクト

住友ゴム工業株式会社との協働事業で、全国 10 ヶ所のプロジェクト未来遺産に登録されている団体等が行っている活動に、同社社員がボランティアとして協力。環境保護に資する活動を展開した。

② 植樹プロジェクト (青森県)

世界遺産「白神山地」周辺地域での植樹活動を通して、環境保全意識の啓発を行った。

(5) 海外との連携

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (Asian Pacific Federation of UNESCO Clubs, Centers and Associations : AFUCA) の活動振興 (通年)

A) 中国第 22 回 AFUCA 執行委員会

2014 年 7 月 18 日、中国・長春にて、10 ヶ国から 28 人が出席し、上記執行委員会が開催され各国の活動報告や AFUCA 事務局報告が行われた。また、UNESCO から WFUCA に対して提示されているロゴや名称問題に関する課題についての情報共有がなされた。次回の第 23 回 AFUCA 執行委員会 (次回は選挙も含む) はカザフスタンが立候補し、満場一致で 2016 年 7 月半ばに実施されることとなった。

B) 2014 アジアヨーロッパ教育フォーラム

2014 年 7 月 16 日～20 日に中国・長春で開催された、2014 Asia-Europe Forum on Education (AEFE) —Promoting Multicultural Communication and Enhancing Educational Internationalization にキーノートスピーカーとして野口昇理事長が出席した。

C) 「第 29 回韓国ユネスコ協会全国大会 in 済州島」

2014 年 11 月 19 日～22 日に韓国・済州島で開催された上記大会に松田昌士会長、野口昇理事長、全国の 7 ヶ協 (岩国、開倫、鎌倉、岐阜県、杉並、目黒、まちださがみ) から 17 人が参加した。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)

WFUCA が実施するユネスコ活動への振興に協力した。

③ UNESCO との連携

A) UNESCO 公式サポーター

2012 年 2 月に UNESCO と締結した日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、最初の「UNESCO 公式サポーター」企業となった全日本空輸株式会社 (ANA) により、11 月より国際線運航機材に「UNESCO ロゴ」と「We Support UNESCO」という文字を

ラッピングした 22 機の飛行機の運航が開始された。また寄附付き商品などの機内販売を実施した。

B) UNESCO 芸術賞基金

本事業が既に多大な成果を挙げて当初の目的を達成したことを評価しつつ、UNESCO と日本ユネスコ協会連盟は同基金による若手芸術家顕彰事業を終了させることに合意した。この合意に基づき同基金から 75 万ドルを UNESCO に提供した。

C) ボコバ事務局長来日歓迎レセプション

UNESCO のボコバ事務局長来日に合わせ、11 月 8 日、当協会連盟主催で民間ユネスコ運動にたずさわるユネスコ協会会員をはじめ関係者一同が会し、東京・飯田橋のホテルで来日歓迎レセプションが開催された。(協賛：イセ食品株式会社、協力：瀬祭、PIECE of PEACE 実行委員会)

(6) 普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ 2014 年 4 月号 vol. 1144」	2014 年 4 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2014 年 7 月号 vol. 1145」	2014 年 7 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2014 年 10 月号 vol. 1146」	2014 年 10 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2015 年 1 月号 vol. 1147」	2015 年 1 月 1 日発行

② 日本ユネスコ協会連盟概要ブックレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄附に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を配布した。

③ ホームページの更新・管理運営

民間ユネスコ活動を広報する「活動ニュース」、「スタッフブログ」、「会員ページ」、「トピックス」など最新情報を随時更新した。フェイスブックの登録数は 2,553 人(2015 年 3 月 31 日現在)に増加した。

④ メールマガジン、リリース等による情報発信

メールマガジン登録者約 6,100 人に対し、通巻 197 号～205 号を発行した。また、各事業の実施に当たり、広く世間に周知を図るため、必要に応じてマスコミへのリリース配信を行った。

⑤ 広報特使との協働

東儀秀樹（日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザー）、久保純子広報特使（まなびゲーター）、わさお（世界遺産活動特別大使）、また UNESCO から任命されている千玄室（UNESCO 親善大使）、二村英仁（UNESCO アーティストフォアピース）、横綱白鵬関（UNESCO スポーツチャンピオン）等各氏のご協力を得て、東日本大震災子ども支援への募金活動などユネスコ運動について協力をいただいた。

⑥ 広報媒体の制作と活用

株式会社電通の広報協力により、書きそんじハガキ回収の呼びかける映像を制作して、ケーブルテレビや学校等で放映した。また、日本経済新聞（2015年3月11日）紙上に「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金」への募金協力を呼びかける新聞広告を掲載した。

⑦ 都市対抗野球大会

2014年7月29日に東京ドームで開催された第85回都市対抗野球大会で優勝した西濃運輸に、スポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で、日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

⑧ 日本ユネスコ協会連盟との共催・後援事業の申入れ承認

他団体（省庁・役所・学校含む）や企業からの共催・後援申請への承諾を行った。

⑨ その他

2014年8月4日、諸外国との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあったとして、(公社)日本ユネスコ協会連盟は、平成26年度（2014年度）外務大臣表彰を受けた。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

“すべての人に教育を（EFA）”の目標達成のため、誰もが基本的人権としての基礎教育を受けられ、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる世界を目指し、開発途上国において教育機会を得られない人びとに対して、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を行った。また、世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や各種企業の協力を得て、国内の書きそんじハガキ回収や募金者を拡大するための広報活動をこれまで以上に積極的に行った。

① アジア3カ国での事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シエムリアップ州教育局と連携し、州内の村で子ども、成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。2014年度は13軒目となる新規の寺子屋が完成した。識字クラスは25クラス625人が参加し、小学校を中途退学した子どもたちのための復学支援クラスでは6クラス150人が学んだ。また、技術訓練クラスとして新しく「絹製品」制作クラスが村の女性たちの要望で設けられた。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、バーミヤン県において、識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。識字事業により、1169人が識字者となり、また技術訓練では革細工や服飾などで386人が訓練を受けた。またカブール市西方に隣接するパグマン郡ボボ村で、新規寺子屋の建設に着手した（完成は2015年第1～2四半期中を目標）。

C) ネパール（ルンビニ寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の12村とカトマンズ近郊の4村で識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。特に識字については、ネパール全土を2015年中に識字化するというネパール教育省の施策に協力し、主としてルンビニにおいて今後5年間で成人非識字者をなくす計画を立て、その1年目として約7,800人に基礎的識字と識字後教育を実施した。

D) アフガニスタン難民子ども支援事業

アフガニスタン難民子ども支援として、カブール市内郊外の国内避難民キャンプ4カ所で、冬季を子どもが無事に過ごすための栄養補助を行い（対象680世帯）、また2カ所で主として女性を対象とした識字教育（修了者495人）を行った。

協力：認定NPO法人ジャパンプラットフォーム

② 世界寺子屋運動促進活動

A) NHK日本賞

2014年10月21日、NHKの教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」授賞式で、「パイジャルプル村のダリットの少女」を企画したネパールのメディア・ヘルプ・ライン

に対して日ユ協連賞が授与された。

B) 世界寺子屋運動促進活動

書きそんじハガキ・キャンペーン 2015 では㈱電通の協力により新たに「タンス遺産 3 兄弟」によるキャラクター登場し、動画提供も受け、身近に楽しく参加できるよう各方面で広報活動を展開した。

C) 高校生カンボジアスタディツアーの実施

2014 年度新規事業として公益財団法人かめのり財団の助成を受けて 8 月 13 日～22 日にかけて、カンボジアスタディツアーを実施した。初年度の 2014 年はパイロット事業と位置付け、関東のユネスコスクール推薦と全国のユ協会長推薦を受けた学生を対象とし、50 人の応募の中から 8 人が選ばれ、現地に派遣された。なお、事後活動を含めた報告書も参加高校生の企画により作成し、関係各団体に配付された。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

世界寺子屋運動の支援先と連携し、貧しい人々への無償医療活動を支援した。

① アジア 3 カ国での事業実施

A) ネパール

世界寺子屋運動の支援地であるルンビニ地区において「国際仏教協会」の医院を通じて、12 の村で低体重の子どもたち 4,240 人に栄養補助食品を配り、母親たちへの栄養指導を実施した。

B) アフガニスタン

カブール市にある「サハ医療センター」への医療活動支援を行った。一般診療、内科、小児科、産婦人科、理学療法、感染症の予防接種などで年間 10 万 8 千人の患者を受け入れた。栄養失調と診断された子どもたち 3,551 人には米、豆、砂糖などの栄養補助食品のセットを配布した。

C) カンボジア

カンボジアに将来にわたって安全な水を届けることを目的として、2013 年度からの 3 カ年計画「天空の杜プロジェクト」を実施中。2014 年度はシアムリアップ州立病院全館に安全な水を供給するろ過浄水設備、州内 3 つの郡立病院と寺子屋にはろ過浄水機とソーラーシステムなどの機材を設置し、現地スタッフへのメンテナンス研修を行った。

協力：株式会社富山環境整備

(3) 世界遺産・地域遺産活動（通年）

世界遺産、地域遺産を通して、国際理解を深め、自然や文化の多様性を広く一般に伝えるために以下の活動を行った。（地域遺産活動については p8）

① カンボジア世界遺産「シンハ像・ナーガ像」彫像修復プロジェクト

世界遺産「アンコール」にあるバイヨン寺院「シンハ像・ナーガ像」の修復プロジェ

クトおよび人材育成を現地 NGO（アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構：JST）とともに日本政府アンコール遺跡救済チーム（JASA）の技術協力のもと実施した。

② 世界遺産年報の発行

富岡製糸場を含む計 4 つの資産が新たに世界遺産登録されたのを記念し、特集に、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を組んだ『世界遺産年報 2015 No.20』を発行した。一般財団法人日本宝くじ協会の一部助成を得て、国公立図書館、大学付属図書館、公民館教育委員会等、約 11,000 団体に寄贈した。

3. 財務体質の強化

募金促進

① 「月1いいことプログラム」(毎月引落募金) 拡大キャンペーン

継続的な協力者の拡大を目指し、募金者データの管理のため、セールスフォースの導入準備を実施した。

② 書きそんじハガキ回収キャンペーン(通年)

世界寺子屋運動の事業資金となる同キャンペーンについて、2014年度は特に、各地のユネスコ協会との連携を深め、ユネスコスクールへの働きかけを強化した。「書きそんじハガキキャンペーン2014(2013年11月1日～2014年10月31日)」期間中、6千万円上回る金額に相当する募金を集めることができた。

③ 募金者への報告と継続依頼の制作・発送

1月の年間領収書送付時に、募金者に支援していただいた事業実施状況を報告し、支援者からのメッセージを伝え、継続的な支援を得るよう働きかけた。

④ 「活動報告レポート」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「2013年度活動報告レポート」を1万部制作・配布した。

Ⅱ 組織

(2015年3月31日現在)

1. 理事 (28) (五十音順) (* 代表理事)

会長	松田 昌士*	東日本旅客鉄道株式会社顧問	非常勤<維持>
副会長	加藤 玲子	特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会名誉会長	非常勤<個人>
理事長	野口 昇 *	文京学院大学名誉教授	非常勤<会推>
理事	安達 仁美	長野ユネスコ協会青年会員	非常勤<青年>
理事	太田原 弘	盛岡ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会会長	非常勤<会推>
理事	岡田 茂	日本ユネスコ協会連盟元事務局長	非常勤<個人>
理事	坂口 一美	箕面ユネスコ協会会長	非常勤<会推>
理事	荘司 幸子	伊丹ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	鈴木 佑司	法政大学教授特任教授	非常勤<個人>
理事	田中 弘允	鹿児島ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	中村 優子	公益財団法人吉田秀雄記念事業財団次長	非常勤<維持>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所弁護士	非常勤<個人>
理事	野島 嘉之	三菱商事株式会社環境・CSR 推進部部長	非常勤<維持>
理事	野田 智義	特定非営利活動法人アイ・エス・エル理事長	非常勤<会推>
理事	野本 武男	松山ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	林 美紀子	杉並ユネスコ協会顧問	非常勤<構成>
理事	引地 瑠美子	白石ユネスコ協会会長	非常勤<会推>
理事	平田 正之	株式会社情報通信総合研究所相談役	非常勤<会推>
理事	間瀬 雅晴	一般社団法人日本の伝統を守る会理事	非常勤<賛助>
理事	松波 孝之	富山ユネスコ協会理事 (顧問)	非常勤<構成>
理事	森井 曠雄	鎌倉ユネスコ協会理事長	非常勤<構成>
理事	横田 創	松山ユネスコ協会青年代表	非常勤<青年>
理事	横山 清	札幌ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	米田 伸次	帝京大学沖永国際教育研究所客員教授	非常勤<個人>
理事	脇 正典	防府ユネスコ協会会長	非常勤<構成>

(注) <構成> : 構成団体会員代表、<賛助> : 賛助団体会員代表、<個人> : 個人会員代表、
<維持> : 維持会員代表、<青年> : 青年代表、<会推> : 会長推薦

2. 監事 (3)

監事	樋口 達夫	大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼 CEO	非常勤
監事	増田 正志	増田公認会計士事務所公認会計士	非常勤
監事	松代 隆子	(前) 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団専務理事	非常勤

3. 顧問 (10)

尾花珠樹	糟谷勝一	児島 仁	千 宗室	西村幸夫
濱中昭一郎	福原義春	松浦晃一郎	村井 了	村田昌志

4. 評議員数

会員種別	人数	定員
構成団体会員	96人	100人以内
（うち青年代表）	(8人)	(9人以内)
（うち国内委員会委員）	(8人)	(9人以内)
賛助団体会員	2人	5人以内
個人会員	28人	30人以内
維持会員	12人	15人以内
計	138人	150人以内

5. 会員数

会員種別	2013年度末	減	増	2014年度末
構成団体会員	283	1	4	286
賛助団体会員	19	2	2	19
個人・終身個人会員	278	47	17	248
維持会員	142	17	2	127
計	722			680

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 4

菰野ユネスコ協会

2014年9月13日第497回理事会承認

滝沢ユネスコ協会

2015年1月17日第499回理事会承認

スポーツと平和を考えるユネスコクラブ

ミンガラバー・ユネスコクラブ

2015年3月14日第500回理事会承認

<退会> 1

岩国ユネスコ協会青年部

2014年5月24日第495回理事会承認

<名称変更> 1

NPO 法人平和の文化東京ユネスコクラブ

2014年9月13日第497回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 2

特定非営利活動法人国際教育文化交流会、特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

2014年9月13日第497回理事会承認

<退会> 2

公益財団法人余暇文化振興財団
一般社団法人日本写真文化協会

2014年6月21日第496回理事会承認
2014年9月13日第497回理事会承認

個人会員

<入会> 17

斉藤真澄、鈴木 剛、宮下晶子

2014年5月24日第495回理事会承認

石井 敬

2014年6月21日第496回理事会承認

河内順子、松波孝之、安井裕司、大平照子、岩見美智子、栗原智恵子、松下安子、

宮内洋子、山崎 薫

2014年9月13日第497回理事会承認

炭谷宇紀子

2014年11月1日第498回理事会承認

笹井宏益、鳥山 玲

2015年1月17日第499回理事会承認

小暮強志

2015年3月14日第500回理事会承認

<退会> 47

石澤清史、岡本洋子、東 泰介

2014年5月24日第495回理事会承認

内田計手、田中カズ子、角井 宏、内藤栄子、宮下義道、村越由美、

湯木俊治、湯木義夫

2014年9月13日第497回理事会承認

藤井國士

2014年11月1日第498回理事会承認

青木 保、赤池 清、泉 佳保子、内海成治、大島弘義、岡崎 裕、奥澤利治、

菊池嘉人、桑田信一、桜井和子、佐藤洋一、篠原定敏、柴崎あい、高島隆平、

田郷 誠之助、多田孝志、外山 透、保科勝久、本多裕子、松井ケティ、

三林加奈、宮本 佳代子、渡辺良行

2015年1月17日第499回理事会承認

浅川和也、岩田 実、岡本憲治、北川 紘一郎、サイ・イエングアン、笹川孝一、

佐藤康夫、庄司幸子、田中 美智子、手島廣三、松波 健四郎、村松泰子

2015年3月14日第500回理事会承認

維持会員

<入会> 2

株式会社 JTB コーポレートセールス第3事業部

2014年5月24日第495回理事会承認

株式会社クラウン・パッケージ

2014年9月13日第497回理事会承認

<退会> 17

株式会社テクノソリューション株式会社

2014年5月24日第495回理事会承認

株式会社山口銀行、株式会社ニューバズ

2014年6月21日第496回理事会承認

MID モエヘネシーディアジオ株式会社、富士通トラベランス株式会社、

富士通ホーム&オフィスサービス株式会社、峰岸不動産株式会社

2014年9月13日第497回理事会承認

株式会社ア・マールタマール、株式会社ミドルウェイ ジーエスエイチ

2014年11月1日第498回理事会承認

大和ハウス工業株式会社、株式会社ガリバーインターナショナル、

株式会社サニーサイドアップ、株式会社空旅.COM、トリップアドバイザー株式会社、

株式会社ビーオーエス、株式会社ビル代行、株式会社ワビサビエンターテイメント

2015年3月14日第500回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員 (2014年3月末現在)

北海道	大津 和子	(北海道ユネスコ連絡協議会会長)
東北	及川 幸彦	(気仙沼ユネスコ協会理事)
関東・甲信越	横山 恵里子	(新潟市ユネスコ協会事務局長)
	井原 正登	(特定非営利活動法人木曾ユネスコ協会会長)
中部	金原 祥子	(名古屋ユネスコ協会理事長)
近畿	空席	
中国	岡田 元子	(防府ユネスコ協会理事)
四国	河内 順子	(徳島ユネスコ協会会長)
九州	東 良和	(沖縄県ユネスコ協会副会長)

Ⅲ 会 議

1. 総会

第65回定時総会

日 時 2014年6月21日(土) 14:30～16:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(A室)

議 長 会長 松田昌士

議決権を有する社員の総数 721名

総議決権数 721個

出席社員数 393名(議決権行使書提出者を含む)

出席の社員が有する議決権数 393個

【決議事項】

第1号議案 2013年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

第2号議案 監事の選出について

【特別講演】

テーマ 「ESD推進のための取り組みについて」

講師 安西祐一郎先生(日本ユネスコ国内委員会会長)

【報告事項】

1 2014年度事業計画書および予算書

2 「ユネスコ協会ESDパスポートプロジェクト事例発表」
松波孝之氏(日ユ協連理事)

3 「海外のユネスコスクールとの交流とUNESCOを訪ねて」
大貫絵莉子氏(市川高等学校2年、第4回ESD国際交流プログラム参加者)

4 その他

2. 理事会

第495回理事会

日 時 2014年5月24日(土) 12:30～15:00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 21名(理事総数28名)

議 題

I. 第494回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について

2. 2013年度事業報告書(案)および2013年度計算書類等(案)について

3. 役員選任に関する規程及び評議員選任に関する規程について

4. 第65回定時総会について

5. 選考委員会の設置について

6. その他

・民間ユネスコ運動発展委員会

・2015年度ブロック研究会共通テーマ

・2015年度全国大会

- ・機関誌「ユネスコ」
- ・高校生カンボジアスタディツアー
- ・2014年度青少年活動助成

Ⅲ. 報告事項

1. 2014年3月から5月までの事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

第496回理事会

日 時 2014年6月21日(土) 13:15~14:00
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 22名(理事総数28名)
 議 題

Ⅰ. 第495回理事会議事要録の承認

Ⅱ. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 2014年度6月の事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

第497回理事会

日 時 2014年9月13日(土) 15:00~17:30
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 23名(理事総数28名)
 議 題

Ⅰ. 第496回理事会議事要録の承認

Ⅱ. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 民間ユネスコ運動発展委員会 小部会からの報告について
3. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 日ユ協連の事業報告(2014年6~9月)
2. カンボジア事務所からの報告
3. ユネスコ・ボランティア交流ツアーの報告
4. 後援・共催事業
5. その他

第498回理事会

日 時 2014年11月1日(土) 12:30~15:00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 23名 (理事総数27名)

議 題

I. 第497回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 民間ユネスコ運動発展委員会 小部会からの報告について
3. その他

III. 報告事項

1. 2014年度9-10月の事業報告および今後の日程(案)
2. 中間決算
3. 後援・共催事業
4. その他

第499回理事会

日 時 2015年1月17日(土) 12:30~14:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 22名 (理事総数27名)

I. 第498回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 小部会からの報告
3. 2015年度事業計画及び予算の骨子(案)
4. その他

III. 報告事項

1. 2014年11-2015年1月の事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

第500回理事会

日 時 2015年3月14日(土) 15:00~17:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 25名 (理事総数26名)

I. 第499回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 組織活動部会からの報告

3. 2015年度事業計画書及び予算（案）
「2015年度事業計画書及び収支予算書（案）」の説明
 - ①2015年度事業計画書（案）
 - ②2015年度予算書（案）
 - ③資金調達および設備投資の見込み（案）
4. 世界寺子屋運動部会からの提言
5. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 2015年度1-3月の事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

3. 評議員会

第33回評議員会

日 時 2014年5月24日（土） 15：15～18：15
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 構成団体会員 49名
 維持会員 2名
 個人会員 15名
 賛助団体会員 2名
 青年代表 6名
 ユネスコ国内委員 4名
 理事 1名
 出席者計 118名
 委任状 39通

議 題

1. 第32回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2014年1月～5月）
3. 2014年度事業計画書および予算書について
4. ユネスコスクールとの連携について 米田伸次（日ユ協連理事）
5. その他
6. 理事・評議員情報交換会

第34回評議員会

日 時 2014年11月1日（土） 15：15～18：15
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 構成団体会員 43名
 維持会員 5名
 個人会員 16名
 賛助団体会員 1名

青年代表	6名
ユネスコ国内委員	3名
上記以外の役員	1名
出席者計	74名
委任状	48通

議 題

1. 第33回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2014年6月～10月）
3. 部会からの報告
4. その他
5. 理事・評議員情報交換会（全国大会とブロック研究会について）

第35回評議員会

日 時	2015年1月17日（土）14：45～17：45
場 所	東京都・大手町サンスカイルーム（E室）
議 長	会長 松田 昌士
出席者	構成団体会員 44名
	維持会員 4名
	個人会員 20名
	賛助団体会員 1名
	青年代表 5名
	ユネスコ国内委員 5名
	上記以外の役員 2名
	出席者計 81名
	委任状 38通

議 題

1. 第34回評議員会議事要録の承認
2. 2014年度11月から12月までの事業報告及び今後の日程(案)について
3. 小部会からの報告
4. 2015年度事業計画（案）
5. その他
6. 理事・評議員情報交換会

4. 各種委員会等

松田昌士会長と加藤玲子副会長をそれぞれ委員長、副委員長とする「民間ユネスコ運動発展委員会」のもと、3つの部会が設置され、テーマ別に小部会を設置、民間ユネスコ運動の発展にむけて審議を行った。鈴木佑司理事を部会長とする「組織活動部会」では会員の入退会等、組織活動全般や青少年関連、学校との連携、間瀬雅晴理事を部会長とする「財務・運営部会」では財務体質改善を目的とした新規事業の検討ならびにデータベースの構築について検討を行った。なお組織活動及び財務・運営の両部会にはアドバイザーとして岡田茂理事、田中弘允理事、米田伸次理事が参加した。また、千葉晃弘評議員を部会長とす

る「世界寺子屋運動部会」では、ユネスコ世界寺子屋運動の今後の方向性について議論が行われた。

(1) 部会

① 組織活動部会・「民間ユネスコ運動の手引き」作成小部会

小部会長：石田喬也（評議員）

部 会 員：引地瑠美子（理事）、吉崎晴子（評議員）

内 容：地域のユネスコ協会・クラブが組織の運営にあたり参考にできるような手引き（「民間ユネスコ運動の手引き」）を作成、全ユネスコ協会・クラブに配布した。

開 催 日：2014年6月16日、7月14日、8月11日、10月1日

② 組織活動部会・「会員の入退会、会員資格等の審議」小部会

小部会長：林美紀子（理事）

部 会 員：二瓶和敏（理事）、森井曠雄（理事）、横山清（理事）、松波孝之（理事）、
莊司幸子（理事）、野本武男（理事）、太田原弘（理事）、脇正典（理事）

内 容：新規に日本ユネスコ協会連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について運営体制や活動について協議を行う。また、ユネスコ協会の今後の発展や財務的な問題など多岐にわたる問題について協議を行った。

開 催 日： 2014年9月13日、11月1日、2015年1月17日、3月14日

③ 組織活動部会・「青少年関連」小部会

小部会長：松波孝之理事（副部会長）

部 会 員：安達仁美（理事）、横田創（理事）、小暮強志（渋谷ユ協理事）

内 容：日ユ協連が「青年リーダー」の養成をサポートし、また所属「地域ユ協」を支援することで、地域における一般青少年をユネスコ活動に巻き込んでいくという循環を目指すための仕組み作りとして、青年リーダー養成を目的とした「外部研修参加補助制度」を開始し、また青年評議員や全国的青年連絡組織代表を対象に情報交換会を開催した。また、「ユネスコ全国子どもキャンプ」の2015年度以降の実施方法について検討をした。

開 催 日：2014年5月24日、6月21日、9月14日、11月2日、2015年1月18日、
3月15日

④ 組織活動部会・「ESD パスポートによるユネスコスクールとの連携強化」小部会

小部会長：大津和子

部 会 員：金原祥子（評議員）、坂口一美（理事）

内 容：ESD パスポート事業によるユネスコスクールとの連携強化、ユネスコ協会へのさらなる普及促進を行い、ユネスコ活動の活性化を図ることを目的とした本小部会では、参加ユ協を対象にキックオフ会議や振り返り会合を開催、事業の成果と課題等を共有し、それをふまえ、次年度実施に向け、事業内容の検討を行った。

開催日：2014年6月7日、6月22日（キックオフ会議）、9月13日、12月14日、
2015年1月17日（振返り会合）

⑤ 財務運営部会・「財務戦略」小部会

小部会長：間瀬雅晴（理事）

部会員：野島嘉之（理事）、林美紀子（理事）、濱松敏廣（評議員）、吉崎晴子（評議員）

内容：子どもの貧困問題を解決するための事業を行うことが、ユネスコの理念にも沿ったユネスコらしい事業であり、社会の共感を得られる新しい事業として成長する可能性が高いのではないかとの仮説に基づき、「日ユ協連がこの課題解決のための事業を行うとし際、どのような事業構築が可能か」を政府の大綱の取組を念頭に置きながら検討し、理事会に提言した。

開催日：2014年6月3日、6月17日、7月15日、8月5日、9月4日、9月25日、
10月7日、10月16日（勉強会：7月2日、7月29日）

⑥ 財務運営部会・「戦略的データベースの構築および会員増への施策」小部会

小部会長：間瀬雅晴（理事）

部会員：小出寛治（評議員）、中村優子（理事）

内容：新たなデータベース導入が提案された。個人会員・法人会員獲得のための施策や、法人・企業向け対応などが、協議され、企業の協力内容を会報、ホームページ、マスコミ発表等で積極的に発信する等の指針が示された。

開催日：6月17日、7月24日、8月14日、9月8日

⑦ 「世界寺子屋運動部会」

部会長：千葉果弘（評議員・世界寺子屋運動20周年委員会委員長）

部会員：笹井宏益（国立教育政策研究所）、黒田一雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究所）、野村朗子（㈱電通社会貢献・環境推進部）、尾花珠樹（元日ユ協連事務局長）、安達仁美（日ユ協連青年代表理事）、横田創（日ユ協連青年代表理事）

内容：2010年に策定した「ユネスコ寺子屋運動 -2020年へのビジョン-」に基づき、これまでの運動の実績を踏まえ、2019年に30周年を迎える「ユネスコ世界寺子屋運動」に向けた課題や今後の方向性について検討し、2015年3月14日の理事会報告で部会長から提言が出されて了承された。

開催日：10月31日（金）準備会合、2015年1月16日、3月13日

（2）「世界遺産年報2015」アドバイザーグループ

開催日：2014年7月24日

委嘱事項：「世界遺産年報2015」出版に関わる専門的立場からの監修、助言

座長 西村幸夫（日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター所長・教授）

メンバー 稲葉信子(日本イコモス国内委員会、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)
岡田保良(日本イコモス国内委員会、国土舘大学教授、イラク古代文化研究所所
長)、矢野和之(日本イコモス国内委員会事務局長、株式会社文化財保存計画協
会代表取締役)、吉田正人(IUCN 日本委員会会長、筑波大学大学院人間総合科学
研究科教授)、米田久美子(財団法人自然環境研究センター研究主幹)

(3) 青少年ユネスコ活動助成審査会

開催日：2014年5月14日

委嘱事項：青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可
否及び助成交付金額の決定

委員 野口昇(理事長)、林美紀子(理事)、小出寛治(評議員)、吉崎晴子(評議員)

(4) 未来遺産委員会

日時 2014年12月8日

場所 東京大学 (東京都文京区)

委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長 西村幸夫(日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター教授)

委員 秋道智彌(総合地球環境学研究所副所長・教授)、古谷堯彦(大分合同新聞社常
務取締役営業部長)、佐野賢治(神奈川大学日本常民文化研究所所長)、
齊藤裕嗣(東京文化財研究所 無形文化遺産部 研究員)、銭谷眞美(東京国立博
物館館長)、土屋 誠(琉球大学理学部海洋自然科学科教授) 中塚健也(日本電
信電話株式会社総務部長)、成瀬 明(トヨタ自動車(株)レクサス国内営業部部長)、
西山 厚(奈良国立博物館学芸部長)、西山徳明(北海道大学観光学高等研究セ
ンター教授)、野口 昇(日ユ協連理事長)、野島嘉之(日ユ協連理事、三菱商事
株式会社環境・CSR 推進部長)、朴 恵淑(三重大学人文学部教授)、原口 宰(東
日本旅客鉄道株式会社常務取締役)、北条敏明(住友ゴム工業株式会社CSR推
進室室長)、前田耕作(文化遺産国際協力コンソーシアム客員研究員、アフガニスタン文
化研究所所長)、宮廻正明(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、矢野和之(日
本イコモス国内委員会事務局長)、鷺谷いづみ(東京大学大学院農学生命科学研
究科教授)

附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」
第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が
存在しないので作成しない。

平成27年6月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟